

# 公共牧場・放牧をめぐる情勢

畜産局飼料課

令和 7 年 1 1 月

農林水産省

# 目 次

## 公共牧場編

- ・ 公共牧場の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・ 公共牧場の所有主体及び管理委託状況・・・・・・・・・・ 6
- ・ 公共牧場の利用率・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・ 公共牧場の経営形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・ 公共牧場について＜参考＞・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## 放牧編

- ・ 持続的な畜産物生産の在り方検討会と放牧・・・・・・・・ 11
- ・ 放牧頭数・放牧戸数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・ 放牧の取組事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・ 酪農における集約放牧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- ・ 肉用繁殖雌牛の放牧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・ 放牧実践の見える化（放牧畜産基準の認証制度）・・・・ 16



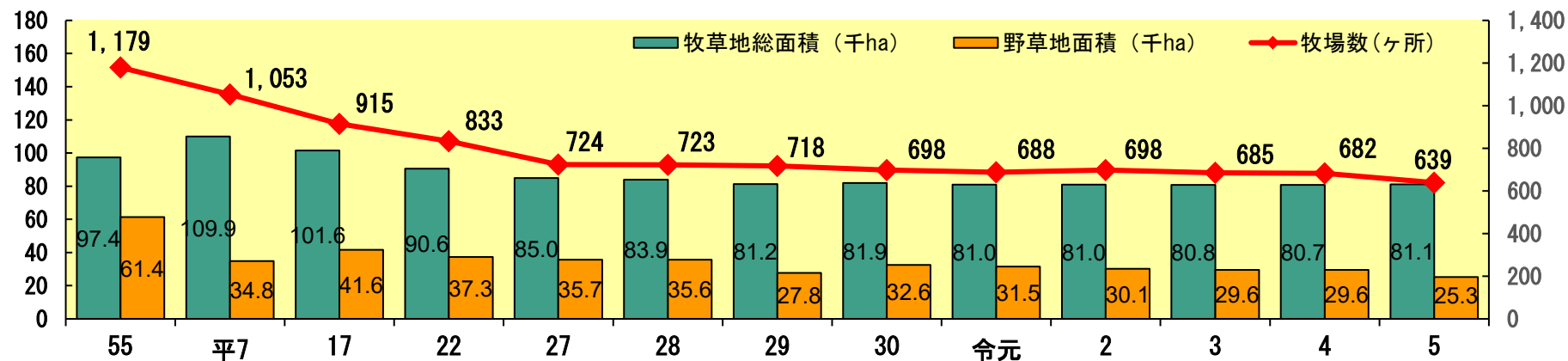
# 公 共 牧 場 編

本資料は、(一社)日本草地畜産種子協会等の協力により取りまとめたものである。

# 1. 公共牧場の利用状況

- ① 公共牧場数は、預託頭数の減少による休止や統廃合から近年減少傾向で推移し、令和5年度は639箇所。  
また、公共牧場数の減少に伴い、牧草地総面積も減少傾向で推移し、令和5年度は約8.1万ha。
- ② 公共牧場の利用頭数は減少傾向で推移しており、令和5年度の利用頭数(夏期:7月1日時点)は11.8万頭。  
畜種別では、乳用牛が8.3万頭、肉用牛が3.5万頭。

千ha ○公共牧場数及び牧草地総面積の推移

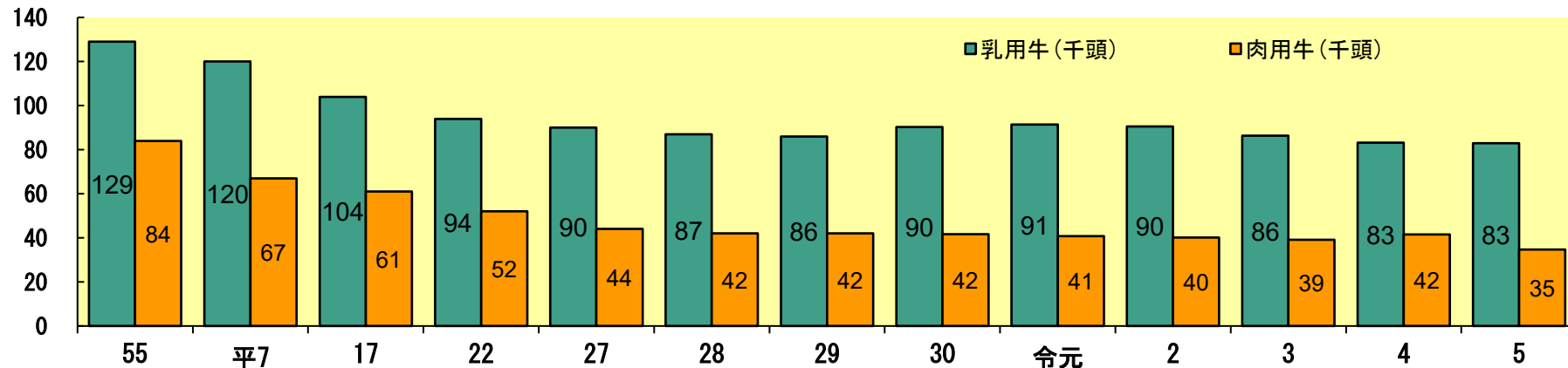


資料: (一社): 日本草地畜産種子協会及び畜産局飼料課調べ

注1: 牧場数は、稼働している公共牧場の数であり、休止または廃止している牧場は含まない。

注2: 牧草地総面積は、採草地、放牧地及び採草・放牧兼用地の実面積であり、飼料畑面積は含まない。

千頭 ○公共牧場利用頭数の推移



資料: (一社): 日本草地畜産種子協会及び畜産局飼料課調べ

注: 利用頭数の集計対象は牛(乳用牛、肉用牛)のみ。

- ③ 夏期(7月1日時点)における総利用頭数に占める畜種別の割合は、乳用牛が約71%、肉用牛が約30%。  
また、地域別では、北海道で乳用牛の割合が約93%と高く、逆に都府県では肉用牛の割合が約64%と高い。
- ④ 1牧場当たりの夏期利用頭数は184頭、1牧場当たりの牧草地利用面積は111ha。
- ⑤ 公共牧場利用対象牛のうち、実際に公共牧場を利用した牛の割合は、全国で乳用牛が約16%、肉用牛が約4%。

## ○公共牧場の利用状況(令和5年度)

	牧場数 (箇所数)	利用頭数(千頭)(7月1日時点)			牧草地 総面積 (千ha)	うち 利用面積 (千ha)	野草地 面積 (千ha)	1牧場当たり		
		計	乳用牛	肉用牛				利用頭数 (頭) ①	利用草地 (ha) ②	1ha当たり 頭数 (頭/ha) ①/②
全国	639	118 (100%)	83 (70.5%)	35 (29.5%)	81.1	71.0	25.3	184	111	1.65
北海道	179	72 (100%)	67 (93.1%)	5 (6.9%)	47.8	42.6	7.1	403	238	1.69
都府県	460	45 (100%)	16 (35.6%)	29 (64.4%)	33.3	28.5	18.1	99	62	1.59

資料: 畜産局飼料課調べ

## ○公共牧場利用対象牛における利用割合(令和5年度)

	乳用牛			肉用牛		
	公共牧場利用 対象牛 (千頭) ①	公共牧場 利用頭数 (千頭) ②	利用頭数 割合 ②/①	公共牧場利用 対象牛 (千頭) ③	公共牧場 利用頭数 (千頭) ④	利用頭数 割合 ④/③
全国	519	83	16.0%	912	35	3.8%
北海道	373	67	17.9%	114	5	4.8%
都府県	146	16	11.1%	798	29	3.7%

資料: 公共牧場利用対象頭数は、農林水産省「畜産統計」(令和5年2月1日)。公共牧場利用頭数は、畜産局飼料課調べ(令和5年7月1日現在の頭数)。

注: 乳用牛の放牧対象頭数は、未經産牛(2歳以上の未經産と2歳未満の計)に係るもの。

肉用牛の放牧対象頭数は、子取り用めす牛に一歳未満雌牛の1/2及び一歳未満雄牛の1/2を加算したもの。

四捨五入の関係で内訳と計が一致しない場合がある。

- ⑥ 公共牧場を利用する農家戸数は、全国で約7.7千戸。  
公共牧場の管内または管外の農家の利用割合は、管内の農家の利用割合が約82%と高い。
- ⑦ 牛の飼養農家における公共牧場の利用状況は、全国で乳用牛飼養農家が約35%、肉用牛飼養農家が約8%。  
また、都府県に比べ、北海道では乳用牛と肉用牛ともに公共牧場の利用割合が高い。

### ○公共牧場の利用農家戸数(管内・管外別)(令和5年度)

		利用農家戸数(戸)		合計
		管内	管外	
全国		6,283 (82.1%)	1,374 (17.9%)	7,657 (100%)
	北海道	2,339 (83.3%)	469 (16.7%)	2,808 (100%)
	都府県	3,944 (81.3%)	905 (18.7%)	4,849 (100%)

資料:畜産局飼料課調べ

### ○公共牧場の利用農家割合(令和5年度)

		乳用牛			肉用牛		
		農家戸数 (戸)①	利用農家 (戸)②	利用農家割合 ②/①	農家戸数 (戸)①	利用農家 (戸)②	利用農家割合 ②/①
全国		12,600	4,416	35.0%	38,600	3,241	8.4%
	北海道	5,380	2,548	47.4%	2,180	260	11.9%
	都府県	7,240	1,868	25.8%	36,400	2,981	8.2%

資料:農家戸数は、農林水産省「畜産統計」(令和5年2月1日)。利用農家戸数は、畜産局飼料課調べ。

注 : 肉用牛農家戸数は、子取り用めす牛飼養戸数。四捨五入の都合により、内訳と計が一致しない場合がある。

- ⑧ 公共牧場における牧草地面積は、約8.1万haで、我が国の全牧草地面積(58.9万ha)の約14%を占める。  
特に、都府県では、公共牧場が牧草地面積の1/3以上(36.7%)以上を占めており、重要な飼料基盤となっている。

# ○牧草地面積に占める公共牧場の牧草地面積のシェア(令和5年度)

	牧場数 (箇所数)	牧草地面積(ha) ①	公共牧場 牧草地総面積(ha) ②	シェア ②/①
全国	639	589,000 (100.0%)	81,126 (100.0%)	13.8%
北海道	179	498,100 (84.6%)	47,807 (58.9%)	9.6%
都府県	460	90,900 (15.4%)	33,318 (41.1%)	36.7%
東北	215	55,800 (9.5%)	19,142 (23.6%)	34.3%
関東	59	9,580 (1.6%)	4,275 (5.3%)	44.6%
北陸	16	1,690 (0.3%)	882 (1.1%)	52.2%
東海	15	1,520 (0.3%)	1,159 (1.4%)	76.3%
近畿	3	470 (0.1%)	71 (0.1%)	15.1%
中国四国	32	3,380 (0.6%)	2,584 (3.2%)	76.4%
九州	119	12,500 (2.1%)	5,167 (6.4%)	41.3%
沖縄	1	6,000 (1.0%)	38 (0.0%)	0.6%

資料：牧草地面積は、農林水産省「耕地及び作付面積統計」(令和5年)。牧場数及び公共牧場牧草地総面積は、畜産局飼料課調べ。

注：都府県の地域区分は、地方農政局等の地域区分と同一とした。

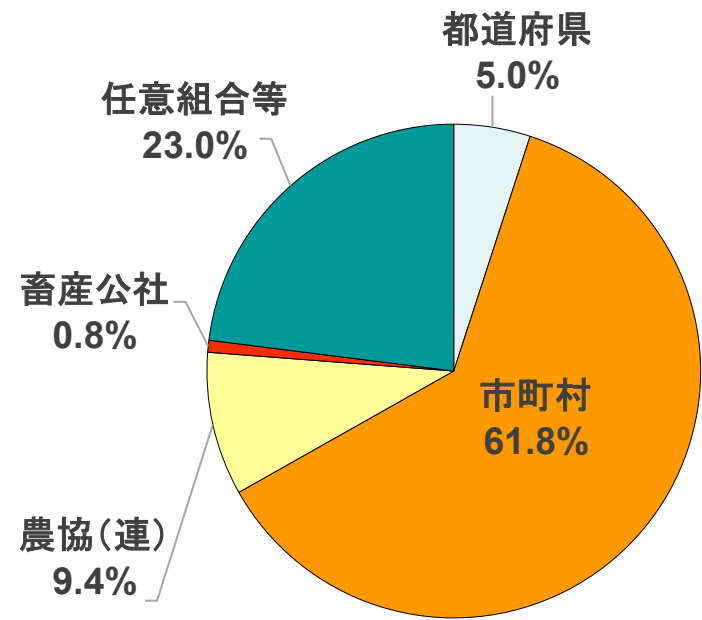
四捨五入の都合により、内訳と計が一致しない場合がある。

## 2.公共牧場の所有主体及び管理委託状況

公共牧場の所有主体は、地方自治体所有が約67%、農協(連)所有が約9%、畜産公社所有が約1%、その他任意組合等所有が約23%。

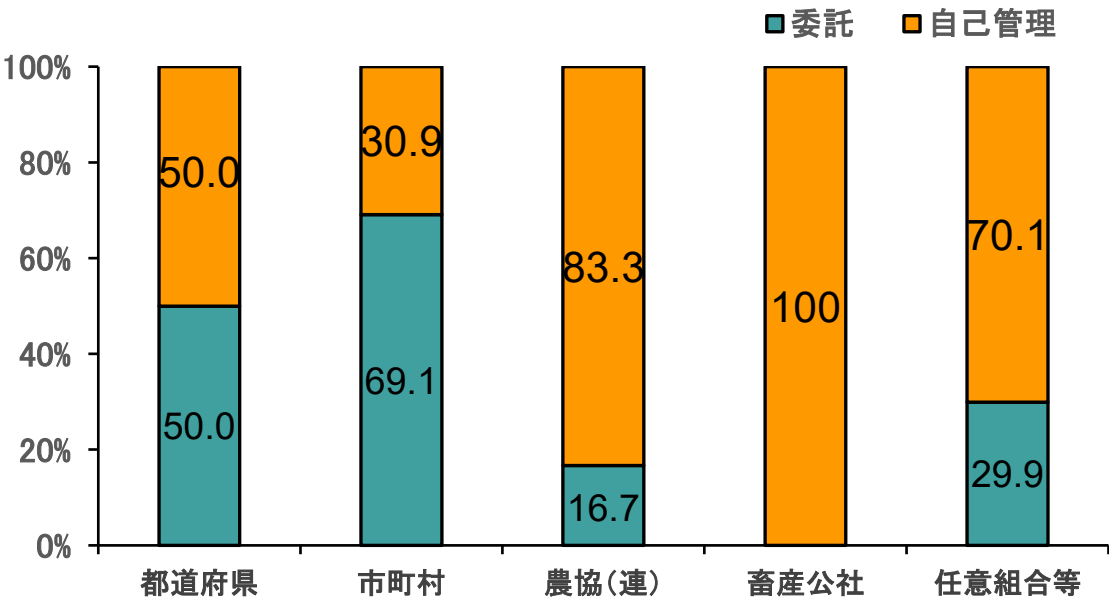
管理主体別では、地方自治体所有の約68%が管理委託をしているのに対し、地方公共団体所有以外の牧場での管理委託割合は約25%。

○公共牧場の所有主体別の割合(令和5年度)



資料: 畜産局飼料課調べ

○所有主体別の管理委託割合(令和5年度)



資料: 畜産局飼料課調べ



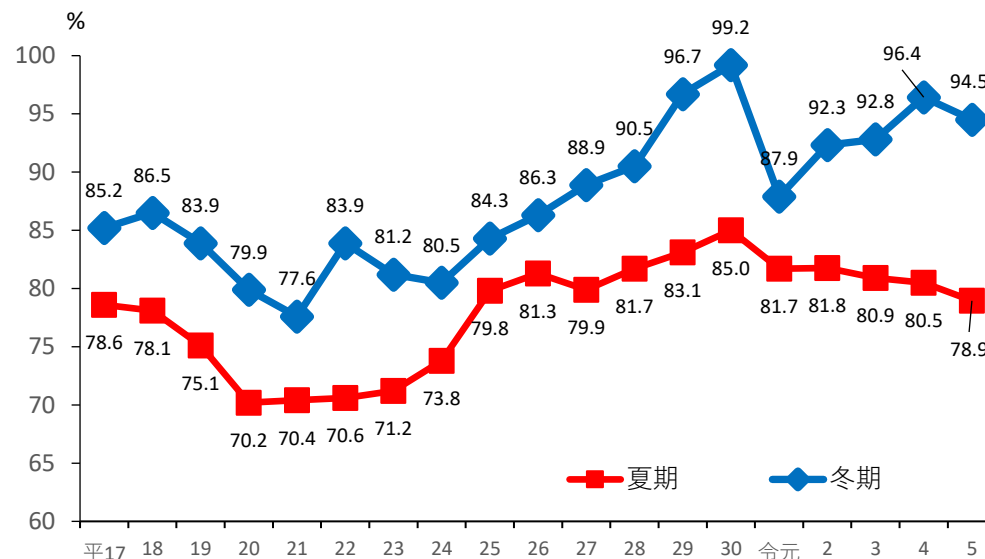
### 3. 公共牧場の利用率

公共牧場の利用率(受入頭数／受入可能頭数)は、令和5年度夏期で約68%、冬期で約81%。

また、全国の公共牧場における夏期の利用率別の割合は、次のとおり。

- 利用率90%以上の牧場が約34%
  - 利用率70～90%の牧場が約19%
  - 利用率50～70%の牧場が約18%
  - 利用率50%未満の牧場が約29%
- \*受入可能頭数が不明な牧場(46件)を除く

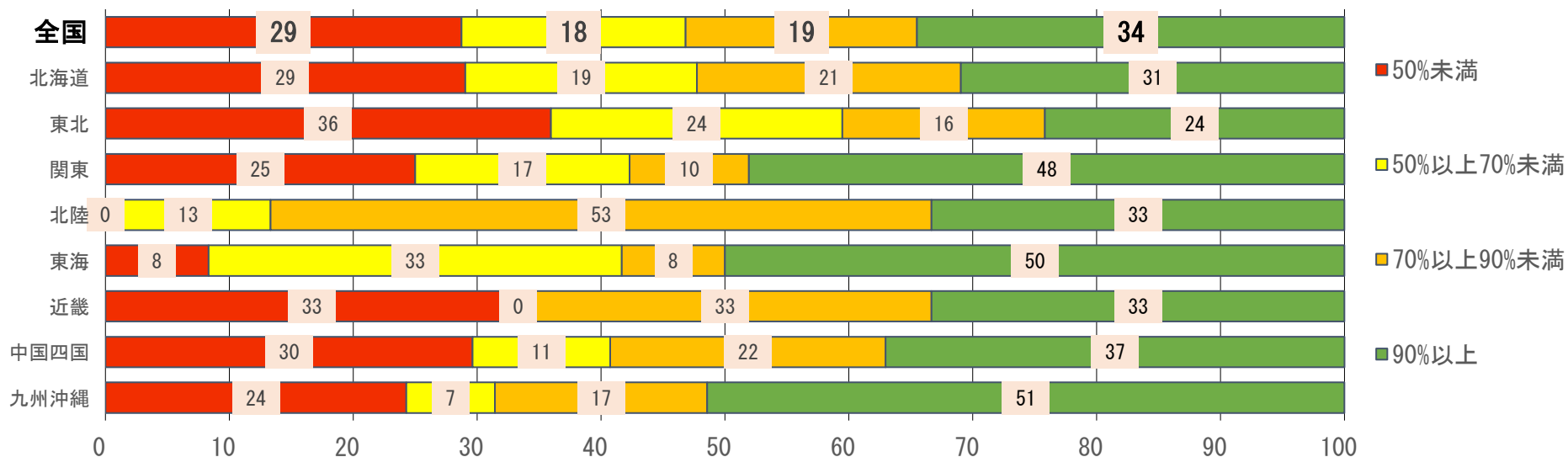
### ○公共牧場の利用率の推移



資料: (一社)日本草地種子協会及び畜産局飼料課調べ

注: 令和5年度から算出方法を変更したため、データに連続性はない

### ○公共牧場における夏期の利用率別の割合(%)



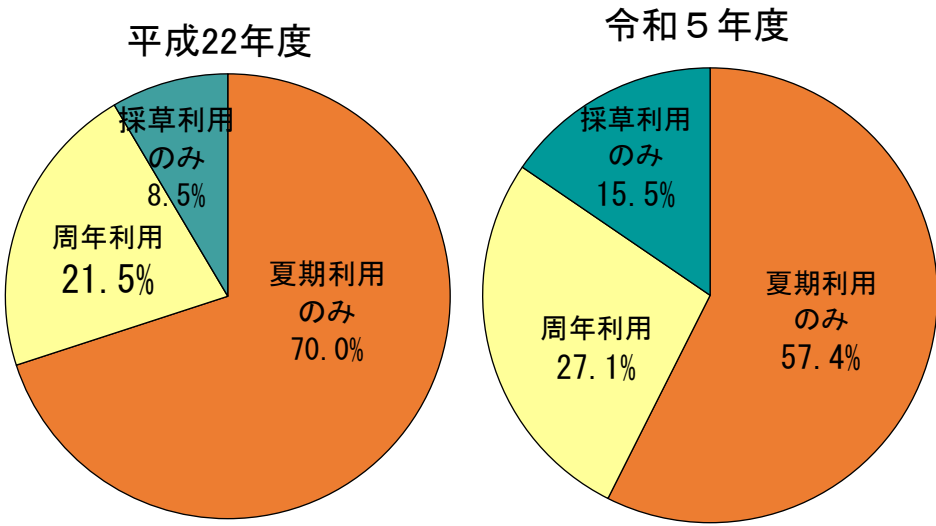
資料: 畜産局飼料課調べ

注: 受入可能頭数が不明な牧場(46件)を除いて算出

#### 4.公共牧場の経営形態

公共牧場の経営形態は、令和5年度で夏期利用のみが約57%、周年利用が約27%、採草利用のみが約16%。  
また、平成22年度と比較すると、周年利用の割合が増え、夏期利用のみの割合が減少。

○公共牧場の経営形態(平成22年度と令和5年度の比較)



資料: 畜産局飼料課調べ

#### 5.公共牧場における繁殖技術の実施状況

公共牧場における人工授精の実施率は、全国で約32%。  
公共牧場における受精卵移植の実施率は、全国で約16%であり、特に都府県に比べ、北海道で実施率が高い。

○公共牧場における繁殖技術の実施状況(令和5年度)

	牧場数 (箇所数) ①	人工授精		受精卵移植	
		実施 牧場数 ②	実施率 ②/①	実施 牧場数 ③	実施率 ③/①
全 国	639	205	32.1%	99	15.5%
北海道	179	67	37.4%	37	20.7%
都府県	460	138	30.0%	62	13.5%

資料: 畜産局飼料課調べ